＜研究論文＞

3行あける

Transformation of Security Concept

英文ﾀｲﾄﾙ：

Century 9ﾌｫﾝﾄ

研究論文の書式見本

所属：明朝11ﾌｫﾝﾄ

氏名：明朝12ﾌｫﾝﾄ

～執筆にあたって～

ﾀｲﾄﾙ：明朝18ﾌｫﾝﾄ

副題：明朝14ﾌｫﾝﾄ

日本計画大学　行政　太郎

ｱﾌﾞｽﾄﾗｸﾄ本文：

Century 9ﾌｫﾝﾄ

**150～200words程度**

Abstract

The concept of security has been narrowly considered within limited demensions.････････

Arial 10.5

（以下省略）

Century 9ﾌｫﾝﾄ

Taro Gyosei

大見出し：

ｺﾞｼｯｸ太12ﾌｫﾝﾄ

**はじめに**

在来の国際関係の分野では「安全保障」概念は極めて限定的に考えられてきた。一般に、それは在来の国際関係の領域において国民国家の主権と独立の保障を中心においてきた。情報化の進展のなかで国家基盤を視座とする国際関係から地球次元への展開において、地球的問題群を中心に安全保障をめぐる主要要素は複雑に多様化し拡張している。

本文：明朝10.5ﾌｫﾝﾄ

**12,000文字（6ﾍﾟｰｼﾞ）**

（図表・注釈・参考文献を含む）

主要資源の供給制約が顕在化するなかで、発展途上国の需要圧力が増大する一方で、耕地面積の減少、水不足、土地生産性の逓減、漁業資源の枯渇等を背景とする食糧供給に関する懸念が深刻となりつつある。さらには、地球収容能力のエコロジカルな限界と地域別な不平等性が論議され、貿易のグリーン化が主張されはじめている。

**このフォーマットに準じて原稿をご執筆下さい。**

**なお、原稿は6ページ（図表・注釈・**

**参考文献を含み）を超える場合に超過料が必要となります。**

**なお原稿体裁，超過料については，  
かならず以下のサイトで最新情報をご確認下さい．**

**http://www.japanpa.jp/3\_/3\_3/**

**このファイルに上書きでご執筆頂きますと便利です。**

　環境問題の深刻化、雇用問題をめぐる軋轢など反グローバライゼーションの強調のもとで、貧富の格差の拡大はますます等閑視できない課題となっている。外国援助が見直されるなかで第３世界の債務状況は急速に悪化している。膨大な難民があぶれる一方で途上国の軍事費の拡大がつづいている。昨今のテロリズムの横行から世界の多くの市民が改めて世界を考え始めたともいえよう。明らかに世界の不安定性は拡大している。

**１．伝統的な国際関係論**

* 1. **＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊**

小見出し：

ｺﾞｼｯｸ太10.5ﾌｫﾝﾄ

　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

（以下省略）

見本は次ページに続きます。

発展途上国

図-1　タイトル

出典：Joesph,N　et al.(1977)をもとに著者作成

【図および表】

・図および表には、番号およびタイトルをつけること。

・図の番号およびタイトルは、図の下側、表の番号およびタイトルは、表の下側に記述する。

・図の番号は、図-1、図-2、・・・とする。

・表の番号は、表-1、表-2、・・・とする。

・図および表には、出典を明記する。筆者が作成した場合でも参考にしたデータ等があれば、「××をもとに著者作成」を記述する。

・図および表の出典あるいは注は、図および表の下側に記述する。

表-1　 20XX年におけるDAC諸国の政府開発援助（ODA）実績

| 順位 | 国名 | 実績額 | ｼｪｱ | 対前年伸び率(％) | 対GNI比 | |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| (百万ﾄﾞﾙ) | (％) | 名目ﾍﾞｰｽ | (％) | 順位 |
| 1 | 米国 |  |  |  |  |  |
| 2 | 英国 |  |  |  |  |  |
| 3 | ドイツ |  |  |  |  |  |
| 4 | フランス |  |  |  |  |  |
| 5 | 日本 |  |  |  |  |  |

出典：外務省HP（閲覧日：20XX年3月3日）より著者作成

注釈と参考文献は明朝9ﾌｫﾝﾄ

―――注―――

1. ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【参考文献】

参考文献を適切に引用し、本研究の位置づけを明確にすること。

参考文の引用は例に倣い、著者の姓、発表年を書く。

例：山田(1985)は･･････、鈴木(1986a)によれば･･････

　　･･････が証明されている（山田・鈴木、1985）。

　　Tanaka et al (1980) は･･････。

参考文献表は、本文末尾に著者のアルファベット順、年代順に記す。

同一著者の同一年代の文献は、引用順にa、b、c･･････を付して並べる。

例：鈴木次郎(1986a)「計画と行政」、『計画と行政』17、34～43．

　　鈴木次郎(1986b)『計画論』学陽書房．

　　Tanaka, S. et al (1980) Planning Administration, Academic Press, New York．

　　Tanaka, S. (1981) “Formal theory of planning”, Mathematical Planning, 18, 121～138

　　山田太郎 (1985) 「計画行政に関する研究」、『計画と行政』13、44～50．

　　山田太郎・鈴木次郎 (1986) 『計画行政学』学陽書房．

―――参考文献―――

* 1. Joseph, N et al(1977) *Power and Inter-dependence*, Little Brown.
  2. 初瀬龍平ほか編(2001)『国際関係論のパラダイム』有信堂